

編集 後記

11月5日から7日にかけて「少子高齢社会における公衆衛生活動～その理念と実践～」をメインテーマに福岡市において日本公衆衛生学会総会が開催されました。この4月から始まった特定検診・特定保健指導についてもメインシンポジウムのテーマに取り上げられました。現在、各保険者において取り組まれているところですが、課題を整理するとともに、これまでの取り組みを今後の取り組みにむすびつけていきたいところです。

また、特定検診・特定保健指導に限らず、これからの急速な高齢化の進展によって生じてくることが予想される課題を念頭におきながら取り組んでいくことが求められています。

このようななか、施策や政策に関係する側面を有している公衆衛生学の果たすべき役割そして公衆衛生学及び公衆衛生学会に対する社会からの期待はこれまで以上に大きいものがあると考えています。

これまで長寿を達成してきた日本ですが、先進国の中で真っ先に高齢化が進行していきます。公衆衛生における知見を積み重ねるとともに、世界に向かって高齢化社会のモデルを示していきたいところです。（清水昌毅）

次号予告（第56巻・第1号）

現代公衆衛生の思想的基盤	多田羅浩三
論壇	
観察研究によるインフルエンザ予防接種の有効性評価の課題	小笹晃太郎, 他
資料	
埼玉県におけるアレルギー性疾患の有症率と関連因子	松本隆二, 他
群馬県東部地域の在日外国人児童生徒の予防接種状況と保護者の意識	津久井 智, 他
連載	
運動・身体活動と公衆衛生(11)	下光輝一
わが国の結核対策の現状と課題(5)	御手洗 聡
21世紀の地域保健(5)	岸本益美